

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473701256	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成17年3月1日
法人名	医療法人 徳寿会		
事業所名	グループホーム プラチナ・ヴィラ青葉台		
所在地	(〒227-0033) 横浜市青葉区鴨志田町758-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		エント数	2 エント
自己評価作成日	令和2年1月27日	評価結果 市町村受理日	令和3年8月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>お客様が外出する機会を多く設ける様にし、地域・社会との繋がりを大切にしている。</p> <p>個人の思いを大切に、その人らしい生活が送れるよう支援している。</p> <p>また、職員は内外への研修に参加し、スキルアップに努めている。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月22日	評価機関 評価決定日	令和3年7月1日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 当事業所は、田園都市線青葉台駅からバスで10分、最寄りの成合バス停から徒歩で5分ほどの場所にある。グループホームに隣接して同一法人の介護老人保健施設「プラチナ・ヴィラ」がある。事業所は斜面を利用して建てられた鉄筋造り2階建ての建物で、道路側から駐車場兼前庭を経たところに位置する玄関が2階部分になっており、道路から建物を見ると平屋建て、裏手から見ると2階建てになっている。事業所の前は交通量の比較的多い幹線道路だが、周辺は竹林や畑があり、のどかな里山の風景が広がっている。</p> <p>【排泄の自立支援】 毎年法人は、全グループの事業所を対象とした「改善事例取組み共有会」を行っている。各事業所がテーマを決めて職員のケアの質の向上や業務改善に取り組んでいる。今年度はコロナ禍ということもあり、例年通りにできないこともあったが、今までの取り組みの継続の成果が出ている。</p> <p>当事業所が一昨年に取り組んだ「排泄の質の改善」から、現在、布のパンツを使用して自立してトイレで排泄する方が18人中11名いる。その他の方も終末期対応の方1名を除いて、リハビリパンツだけの方やリハビリパンツにパットを夜だけ使用する方、夜間だけポータブルトイレを使用する方等きめ細やかな対応の成果が出ている。</p> <p>また、病院から入居に至った方が当初リハビリパンツにパットを使用していたが、時間を決めた声掛けや誘導で布パンツにパットを使用することができるようになり、さらに布パンツだけ使用して、自分でトイレに行けるようになった例がある。</p> <p>【生活の主体者としての利用者支援】 利用者が「介護される人」ではなく、「生活の主体者」として、一人ひとりの残存能力を活かした生活ができるような支援や環境づくりをしている。比較的介護度が低い方が多く、今までしていた家事を継続してできるように毎朝掃除の時間を作り、職員と一緒に居室とリビングを各々がモップで掃除している。また、毎月利用者が中心となり献立を考えて調理をする「お料理の会」を行っている。職員と一緒に包丁で野菜を刻んだり、味付けをしたりして出来上がった料理を職員とともに楽しんでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	プラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添った年間目標を毎年立てている。より良い施設運営を職員同士で目指している。	法人の経営理念「地域に根差したメディアケア」を目指したホームづくりということから、毎年理念の実現に向け「年間目標」を掲げている。今年度の目標は「ご利用者様とご家族に寄り添える支援」「地域交流、地域への参加」である。今年度は新型コロナ禍で「地域交流や地域への参加」ができなかったが、「利用者とその家族に寄り添える支援」の実現に向け、情報、報告の質や、ケアの質を上げることを課題に会議などで話し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域へのイベント等に参加している。年間予定のもと実施、継続している。また新しい窓口も増えつつある。令和2年度はコロナのため休止状態。	自治会に加入するなど、地域との関係を以前から重視し、積極的に地域と交流を図っていた。自治会主催の花見や運動会、夏祭りなどに参加した際は、地域の方から利用者の席の確保など配慮した対応を受けている。また、担当エリアの地域ケアプラザの催し物への利用者の参加などもしていた。今年度はコロナ禍ということで自治会の行事や地域ケアプラザの催し物などがすべて中止になっているため、地域交流ができなくなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、出来ない。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>家族や地域住民による率直な評価を元に研修、改善への取り組みとして活かす働きかけを行っている。</p>	<p>運営推進会議は2か月ごとに近くにある同一法人のグループホームと共同開催している。緊急事態宣言発令中は書面開催にしていたが、その期間外は、隣接の介護老人保健施設の広い会議室で感染症対策を行っている。会議には両事業所の管理者、計画作成担当者、家族代表1名、地域の民生委員、地域包括支援センター職員が参加をしている。民生委員から地域の情報、地域包括支援センター職員からケアプラザの催し物などの情報提供がある。また、メンバーを委員とした「身体拘束等適正化検討委員会」も同時開催している。</p>	<p>運営推進会議の議題が事業所からの活動報告中心となっています。また、メンバーになっている家族以外の参加がほとんどありません。自立度の高い利用者が多いことや、家族の面会、行事への参加も多いことから利用者の参加や、行事に合わせた会議の開催などを検討されたいかがでしょうか。家族にホームの運営に関心を持ってもらい、幅広い意見を募ることを期待します。今後も地域との良好な関係を継続するためにも、自治会に再度参加を呼びかけられることも合わせて期待します。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>区や市の研修に参加、運営推進委員会で事業所の様子を伝え、助言を行っている。</p>	<p>従来参加をしていた行政主催の感染症予防や、消防署主催の避難訓練の研修などは新型コロナの影響で今年度は中止になった。生活保護受給者への区的生活支援課職員の訪問や電話での相談ごとなどで連携を取っている。区の高齢・障害支援課や地域包括支援センターから空き室の問い合わせなどがある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わないことを理解している。しかし事業所の前の道路は交通量が多く危険なため、利用者の状況に合わせ、必要に応じてユニットごとにドア施錠をしている。ケア技術の一環としてスピーチロックなどに陥らないようにフロア間で意識を向けている。	2か月ごとの運営推進会議で「身体拘束等適正化検討委員会」を開催している。研修は例年2回の法人研修を受講していたが、今年度はレポート研修になっている。事業所の敷地前は交通量の多い幹線道路のため、玄関は安全を優先して施錠している。エレベーター、階段は自由に行き来できるが、入居直後で強い外出願望がある利用者の安全確保のために、フロアの出入り口に施錠をしている。今後その方がホームになれて落ち着いてきた際には開錠も考慮している。また向精神薬を医師の管理で使用している方にはできるだけ日中の活動量を増やし、睡眠の質の確保とともに減薬する方向にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルは、常に閲覧できる所に掲げている。研修に参加し、情報の共有と意識改善する機会を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを踏まえて権利擁護の学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書、重要事項説明書の内容説明を行い、当事業所への希望を伺い、対応可能な内容の確認を行っている。管理者がご家族様に説明しご解の下、契約書を交わしている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱をご家族様の目の付きやすい所に設置。面会や行事など来訪時に本人の様子を伝えている。ケアプランは、本人やご家族様の意見を聞き、反映させている。</p>	<p>コロナ禍以前、面会や行事への参加など家族の来訪も多くあった。現在、面会は玄関でガラス越しでしているが、オンライン面会の設備も整えたことから今後はオンラインによる面会も予定している。家族の意見や要望は介護計画作成時に伺う他、月に1回程度は家族に電話等で連絡を取り、話をする機会を作っている。家族の面会時には、職員から話しかけコミュニケーションを取っている。家族から職員に「コロナ禍の中で大変ですね」と労いの言葉があった。年1回「ほんわか便り」で行事や利用者様の様子を伝えている。</p>	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は面接やミーティングにて、職員の意見を聞く努力に努めているが、信頼関係向上のためにも回数や時間が増えていくとベターです。内容は、定期的を開催する定例会にて法人に伝えている。	定期的な職員ミーティングはしていないが、取り上げたい議題や課題がある時に事前に問題提起をし、会議の席で意見を聞いている。薬の変更などすぐに対応が必要なことについては申し送りでも共有している。今年度はコロナ禍ということで利用者の外出などができないため、レクリエーションの充実を図ろうという職員の意見から新たなカラオケセットを導入したり、事業所内の夏祭りなどの行事を増やして利用者に喜ばれている。法人のキャリアパス制度を踏まえ、管理者は年2回の個人面談で職員の目標の達成状況や人事考課を含めた話し合いを持っている。研修や資格取得については費用の補助や、出勤扱いなどの法人の支援策がある。	職員ミーティングを定例化し、前月のヒヤリ・ハットなどの課題、看取り後の振り返りや日々のケアの中で気になること等について話し合いを持たれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シートで、各自目標を設定し、評価している。面接を行い、目標の方向性や達成水準を確認し向上心を育成している。同時に理念や将来どのような方向に進むかなどの共有があると良い。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップの機会を得られるよう、内部、外部の研修への参加を支援している。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>交換研修や内外の研修に参加する事で、他グループホーム職員の交流を図り、会議などで共有しサービスの向上に努力している。介護士に限定せず管理者クラス、ST、介護士他異業種の方からも情報をいただくこともある。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時などに、ホームへの希望と共に、今までの生活歴や生活環境を伺い、今後ホームで安心して生活して頂けるよう、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との電話、又は面接時の会話にて悩んでいる事を伺いホーム入居に関しての心配や不安を減らす努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人やご家族様に今後の希望を伺い、必要な支援が受けられる様、提携機関、協力機関と連絡を取っている。必要に応じ、今まで利用していた機関からの情報も得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、おやつ作り、洗濯物畳み、居室掃除等、入居者様個々の状況に応じ見守りながら、出来る事は一緒に行っている。また同じ人に役割が集中しないように工夫をいれている。		

19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人の様子や体調、要望等を電話や面会時にこまめに伝えるようにし、本人の生活がより良いものになるよう、家族、職員で話し合う機会を作っている。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のほか、親戚、友人知人の来訪を歓迎し、楽しい時間を過ごせるよう支援している。又、電話や手紙、贈り物の取り次ぎも行っている。ただし、令和2年度は社内で許可をとってからの案内となる。	コロナ禍以前は知人や友人の面会もありフロアや居室で歓談してもらっていたが、現在は窓越しの面会や電話の取次ぎなどになっている。手紙や、年賀状の返信の支援もしている。携帯電話は3名（1名はスマートフォン）の方が所有して、家族や友人とやり取りをしている。また、家族からプレゼントされた母の日のカーネーションの鉢植えの世話をし再び花を咲かせる方や、得意な家事を率先して行うなど以前からの生活で得意なことを活かせるように支援している。毎日の新聞購読や、化粧、趣味の読書や塗り絵など生活習慣や趣味の継続も支援している。冷蔵庫に好きな飲料や食べ物を入れている方もいる。入居後の馴染みの関係も大切に毎週来る移動のパン屋や、訪問診療の医師や看護師などが新たな馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう時々席替えをしたり、職員が会話に入ったり全員で楽しめるレクリエーションを行ったりして、新しい関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた後も、面会に行ったり、家族からの相談にも応じている。契約終了後も以前と変わらない様な支援が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者の意向や希望を聞き、情報は申し送りや記録で共有している。またケアプランに反映している。把握が困難な時は表情や行動から汲み取るためにも職員間から多くの情報や気づきを共有できるようにと心掛けている。	把握した利用者の思いや意向は介護記録に記載して申し送りなどで共有している。意思の疎通が困難な方の思いをくみ取るためにできるだけ声をかけ、表情の変化を見逃さないようにキャッチして判断している。家族からの情報だけに偏ることがないように入居後の情報を重視している。意向の把握は、1対1になる入浴時や、夜勤帯に利用者から話を聞けるため、その時間を職員は大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴や生活習慣を伺い、入居後もこれまでの生活が維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や体調、言動の変化などを記録に残し、申し送る事で全職員が現状を把握するように努めている。職員間で日々改善につながる働きかけを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族さまの意向や医師の所見も取り入れて介護計画を作成する。通常は三か月ごとに、急変時はその都度見直すために話し合いを設けている。	居室担当制を取り、担当者と計画作成担当者がアセスメントをしている。担当者が介護計画作成に当たって家族の意向や要望を聞き、医師の意見なども踏まえ、計画作成担当者が介護計画にまとめている。介護計画と日々の介護記録、管理日誌はカードックスにまとめ、職員は記録をする際には介護計画を確認している。介護計画のサービス内容に番号を付け、介護記録と管理日誌に連動させ、実施したケア内容を記載してモニタリングに活かしている。計画は入居時を含め短期目標3か月、長期目標6か月で見直し、変化があれば随時変更している。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の生活の様子や体調等の現状を介護記録に記入。職員間で情報共有し日常介護に活かしている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医師、看護師、薬剤師、在宅医療マッサージ、他施設の相談員、福祉用具店などの協力を得て、その時に必要としているものを提供する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域の催し物に参加が出来ず、支援出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診を受けているが、家族の付き添いによる他受診も可能である。歯科は協力病院への受診か往診を、ご本人様・ご家族様の希望で選択している。	従前からのかかりつけ医に家族対応で受診している方が1名、その他の方は協力医（内科）の訪問診療を月2回受診している。協力医は24時間オンコールで対応してくれる。隣接の同法人の訪問看護ステーションの訪問看護師が月2回健康管理に来ている。訪問歯科医は利用者の入居時に無料の検診を行い、その後、必要に応じた治療をしている。皮膚科などの専門家への通院は原則家族対応をお願いしているが、早急な対応が必要な場合は職員が同行している。訪問マッサージの訪問もある。かかりつけ薬局の協力を得て服薬管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師へ心身の状態や医師の指示、ご本人様、ご家族様の希望を報告し適切なアドバイスを受け、健康管理を行っている。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>介護サマリーや受診、往診の記録で情報を伝え安心して生活できるように支援している。又面会、ムンテラ時に同席し退院後の受け入れ態勢を整えている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる方針を定め同意書を得ている。又、協力医療機関よりの医師、看護師、ご家族様と話し合いを重ね、今後の方針を共有する体制がある。	入居契約時に「重度化した場合の対応にかかる指針」と「急変時対応」について事業所の方針を説明して同意を得ている。また終末期になった時点で医師も同席して事業所としてできることなどを説明している。今年度もコロナ禍の中、ホームでの看取りを希望する家族と話し合いを重ね、病院からホームに退院した後1か月ほど看取り介護をした事例がある。入院中は面会もできなかったが、退院後は毎日家族がホームを訪れ医師の診察に立ち会い利用者と最後の時間を過ごすことができた。職員から看取り介護への不安の声は特に出ていない。研修は毎年行っているが今年度はレポート研修になっている。看取り時に看護師からケアについての指導を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、利用者様とともに避難訓練を行っている。又、併設している同法人施設より協力を得られる体制となっている。	今年度は9月に自主避難訓練を行っている。3月にも夜間想定総合訓練を予定している。夜勤専従の職員の勤務明けに合わせて訓練を行う時もある。例年、隣接の介護老人保健施設の職員が協力してくれる。昨年は近くに住む民生委員や顔馴染みになっている移動のパン屋の協力もあった。緊急時に職員が参集する予定時間の把握や連絡網などを整備している。また、非常災害時の備蓄や備品は職員分を含めて3日分、食料を温める熱源の用意もある。備蓄や備品の保管場所や一覧表などは職員に周知をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご本人様の人格を尊重し、プライドを傷つけないように意識して言葉かけ等を行っている。又個人記録には氏名の明記などしない様に職員全員が周知し、個人情報の取扱いについて大切にしている。	利用者のプライバシー保護や尊厳に配慮して、記録は名前ではなく部屋番号にすることや、呼び名は苗字（本人や家族の要望があれば好む名前で呼ぶこともある）にしている。利用者がケアの中で嫌な表情になったことなどは介護記録や申し送りで共有して繰り返さないように配慮している。排泄の声掛けは周りに聞こえないように小声で話しかけ、さりげない誘導を心掛けている。接遇研修は入職時に加え、毎年法人の研修を受けている。個人情報の記載がある書類は施錠できる書庫で管理している。パソコンは1台で使用者を限定していないが、パスワードを設定している。USBメモリー等の使用はできない。保険証の持ち出しは、管理者と計画作成担当者に限定し、介護記録に記載して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な時や迷っているときは傾聴し自己決定が出来るよう、働きかけている。個々に、話し合い、傾聴をする時間を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクをする際に、何をしたいか伺ったうえで実施している。迷っている方には時期に見合ったものの案、実績記録から提供できそうなものを選択して頂いている。		

39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>訪問理美容と連携を図り、ご本人様の望む身だしなみやおしゃれに添えるように努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者様の個々の好みや得意な事を考え、入居者様と職員が会話を交え楽しく準備や片付けが出来る様に支援している。料理会の開催や、出前等でも食事を楽しんで頂いている。1日の中でおひとり1工程ができる体制をつくれるように配慮している。</p>	<p>食事は3食とも出来立ての副菜を隣接の介護老人保健施設の厨房から運んでいる。ご飯と汁ものはホームの台所で調理している。麺類の時はホームで温めて提供している。毎月、利用者が職員と一緒に調理をする「お料理の会」をユニット毎に実施している。メニューはカレー、焼きそば、ちらし寿司などで、今年度の夏祭りにはおでんを作った。おでんの具材は利用者の好みのものを聞いて取り入れた。コロナ禍以前はときどき外食に出かけていたが、現在は移動のパン屋が来た時に好みのパンを購入するだけになっている。調理に参加する方が多いことや、今まで調理とは縁のなかった男性利用者も興味を持って参加するためおやつ作りのレクリエーションを取り入れている。好評の「お料理の会」を月2回にするかという案も職員から挙がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や食べ方を記録し、本人に合わせ食べ易いように食事形態を工夫した物を提供している。又必要に応じて医師、看護師に相談し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、個人の能力に対応した支援を行っている。又必要に応じ、歯科衛生士よりアドバイスを貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレにて排泄できる様誘導のタイミングを考えている。法人の改善事例研修で入居者様の排泄パターンや行動を明確にし、リハパンから布パンツに変更出来た方も居る。	排泄の自立度の高い方が多く、布パンツを使用して自分でトイレに行き排泄できる方が11/18名、その内、昼夜通して布パンツで過ごす方が10名いる。心配だからとリハビリパンツを使用する方は2名いる。その他の方はリハビリパンツにパットの方が4名、オムツで全介助の方が1名いる。全介助の方を除いて夜間は睡眠を優先するために、パットの工夫やポータブルトイレの使用など、きめ細やかな排泄の支援をしている。病院から退院直後はリハビリパンツにパットを着用していた方が布パンツに改善した事例や、他にもパットが不要になった方など改善事例が複数件ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態やパターンを把握し、水分量や内服薬の調整を行っている。散歩、体操を行い、便秘改善に努めている。必要に応じ医師や看護師よりアドバイスを得ている。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>無理強いせず、個々の希望やタイミングに合わせて入浴している。また、季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯なども行っている。浴槽に入れない方に対してはシャワー浴でサービスを提供させていただいている。</p>	<p>週2回、午前中に入浴をしている。入浴を好まない方は現在ほとんどいないが、時に「今日はいい」という方には時間や日にち、対応者を変えたりして無理強いしないようにしている。毎朝、利用者に温かいタオルをわたして清拭をしてもらっている。自分でできない方は職員が対応している。また、利用者の体調や気分でシャワー浴や足浴にすることもある。季節の菖蒲湯や柚子湯、職員との1対1の会話や鼻歌などで入浴を楽しんでいる。冬場のヒートショック対策として脱衣場の床暖房と浴室温風機を備えている。</p>	
----	----	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその日の状態に応じて、日中臥床時間を設けたり、外気浴をして夜間の安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の情報にて職員は薬の名称、目的を確認している。又、薬の変更時は心身の状態を観察し、記録に残して変化に気付けるよう努めている。とりわけ歩行、血圧に関してはこまかく配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや得意な事を活かし、ご本人様の希望に添える様、支援している。散歩、行事参加を楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外気浴をしたり、近隣の買い物などを支援している。又、地域の行事にも積極的に参加したり、車での外出なども取り入れている。令和2年度はコロナのため実施が見送られることが多かった。	コロナ禍以前は近くのコンビニまで散歩がてら買い物に出かけたり、地域交流も兼ねて地域の行事に参加したり、鴨志田地域ケアプラザの催し物やサークル活動に出掛けていた。現在は、それらが難しいため、天気の良い日には散歩代わりに玄関前の広い前庭兼駐車場にあるベンチで外気浴をしたり、気候の良い時期はお茶を楽しむ機会を作っている。令和2年の初詣の外出以降、外出の機会が少なくなったことから車から降りずに花見をしたり、馴染みの場所に行きたいという利用者に応じてドライブに出かけている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ禍の為、お買い物に行ったり、お金を使える支援が出来ていない。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人情報に配慮して電話を取り次いだり、手紙や年賀状など、大切な人との繋がりが途切れない様に支援している。又、利用者様の携帯は、常にご自身が使用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに協力して作った季節の壁飾りを展示したり、テーブルに花を飾ったりして、居心地の良い空間を演出している。 その他清掃、消毒なども定期的実施。	床暖房の施されたリビング兼食堂は、大きな窓から畑が望め採光も良い。リビングに加湿付きの空気清浄機や送風機を設置し、換気に留意している。また時間を決めて窓を開け換気をしている。1日3回アルコールで手の触れる場所を拭きあげ、感染症対策に努めている。毎朝、朝食後の30分間を掃除の時間として職員、利用者が一緒に掃除をしている。利用者はモップ掛けや手すり拭きなどを手伝っている。食事中はテレビを消しているが、日中はリビングで過ごす方の人数や様子などから音量を調整したり、テレビを消して音楽を流したりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の活動に合わせ、座席配置の工夫をしている。パズルや塗り絵、新聞、読書など一人でも気の合った方でも過ごせる環境を作っているが、テレビがついている時間が長いので改善は必要。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前にご本人様、ご家族様と話し合い、自宅で使用していた家具を配置したり、家族の写真やぬいぐるみなどを飾ったりして居心地の良い空間を作っている。</p>	<p>居室には介護用ベッド、エアコン、クローゼット、防炎カーテンが備え付けられている。利用者は自宅から使い慣れたソファやテーブル、鏡台などの家具や冷蔵庫、仏壇、時計、カレンダーなどの生活用品を持ち込んでいる。以前良く奏でていた琴を持参している方もいる。利用者は以前から使い慣れた家具を置き、思い出の品で居室を飾り、居心地の良い部屋にしている。居室で本を読んだり、テレビを見たり、携帯で友人や家族とやり取りをしたりしながらそれぞれの時間を過ごしている。また、筆筒の整理をしたりする方や、毎朝掃除の時間に居室の掃除をする方も多数いる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の基本動作を把握し、能力に応じ生活が送れるよう、共有部分に手すりや洗面所近くに椅子を置いている。又、トイレなどを明記し、安心して生活できるような環境を作っている。</p>		

事業所名	プラチナ・ヴィラ青葉台
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に添った年間目標を毎年立てている。より良い施設運営を職員同士で目指している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域へのイベント等に参加している。年間予定のもと実施、継続している。また新しい窓口も増えつつある。令和2年度はコロナのため休止状態		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域住民による率直な評価を元に研修、改善への取組みとして活かす働きかけを行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区や市の研修に参加、運営推進委員会で事業所の様子を伝え、助言を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束を行わないことを理解している。しかし事業所の前の道路は交通量が多く危険なため、利用者の状況に合わせ、必要に応じてユニットごとにドア施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルは、常に閲覧できる所に掲げている。研修に参加し、情報の共有と意識改善する機会を作り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを踏まえて権利擁護の学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用契約書、重要事項説明書の内容説明を行い、当事業所への希望を伺い、対応可能な内容の確認を行っている。管理者がご家族様に説明しご解の下、契約書を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をご家族様の目の付きやすい所に設置。面会や行事など来訪時に本人の様子を伝えている。ケアプランは、本人やご家族様の意見を聞き、反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は面接やミーティングにて、職員の意見を聞く努力に努めている。内容は、定期的開催する定例会にて法人に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標管理シートで、各自目標を設定し、評価している。面接を行い、目標の方向性や達成水準を確認し向上心を育成している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップの機会を得られるよう、内部、外部の研修への参加を支援している。またその際はソーシャルディスタンスを厳守している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修や内外の研修に参加する事で、他グループホーム職員の交流を図り、会議などで共有しサービスの向上に努力している。コロナ禍なのでオンラインで内外の施設と情報交換を試みている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時などに、ホームへの希望と共に、今までの生活歴や生活環境を伺い、今後ホームで安心して生活して頂けるよう、取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との電話、又は面接時の会話にて悩んでいる事を伺いホーム入居に関しての心配や不安を減らす努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、ご本人やご家族様に今後の希望を伺い、必要な支援が受けられる様、提携機関、協力機関と連絡を取っている。必要に応じ、今まで利用していた機関からの情報も得ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、おやつ作り、洗濯物畳み、居室掃除等、入居者様個々の状況に応じ見守りながら、出来る事は一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や体調、要望等を電話や面会時にこまめに伝えるようにし、本人の生活がより良いものになるよう、家族、職員で話し合う機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族のほか、親戚、友人知人の来訪を歓迎し、楽しい時間を過ごせるよう支援している。又、電話や手紙、贈り物の取り次ぎも行っている。また、面会の際にはガラス越しなど感染防止に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう時々席替えをしたり、職員が会話に入ったり全員で楽しめるレクリエーションを行ったりして、新しい関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に移られた後も、面会に行ったり、家族からの相談にも応じている。契約終了後も以前と変わらない様な支援が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者の意向や希望を聞き、情報は申し送りや記録で共有している。またケアプランに反映している。把握が困難な時は表情や行動から汲み取る事を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴や生活習慣を伺い、入居後もこれまでの生活が維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や体調、言動の変化などを記録に残し、申し送る事で全職員が現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族さまの意向や医師の所見も取り入れて介護計画を作成する。通常は三か月ごとに、急変時はその都度見直すために話し合いを設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子や体調等の現状を介護記録に記入。職員間で情報共有し日常介護に活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて医師、看護師、薬剤師、在宅医療マッサージ、他施設の相談員、福祉用具店などの協力を得て、その時に必要としているものを提供する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域の催し物に参加が出来ず、支援出来ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による往診を受けているが、家族の付き添いによる他受診も可能である。歯科は協力病院への受診か往診を、ご本人様・ご家族様の希望で選択している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師へ心身の状態や医師の指示、ご本人様、ご家族様の希望を報告し適切なアドバイスを受け、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーや受診、往診の記録で情報を伝え安心して生活できるように支援している。又面会、ムンテラ時に同席し退院後の受け入れ態勢を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応にかかる方針を定め同意書を得ている。又、協力医療機関よりの医師、看護師、ご家族様と話し合いを重ね、今後の方針を共有する体制がある。近年ではGHでのお看取りを希望される家族が増え、GH内でのお看取りのノウハウも蓄積されている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、それに沿って対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、利用者様とともに避難訓練を行っている。又、併設している同法人施設より協力を得られる体制となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご本人様の人格を尊重し、プライドを傷つけないように意識して言葉かけ等を行っている。又個人記録には氏名の明記などしない様に職員全員が周知し、その人らしさを大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が積極的に関わる事で、ご本人様の気持ちを察し、促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	レクをする際に、何をしたいか伺ったうえでやっている。迷っている方には幾つかの案をご提供し、選択して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容と連携を図り、ご本人様の望む身だしなみやおしゃれに添えるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能を維持するためにも、食事の準備や後片付け等、積極的に行って頂いている。又、月一回のお料理会の開催や出前等を通し、食事を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や食べ方を記録し、本人に合わせ食べ易いように食事形態を工夫した物を提供している。又必要に応じて医師、看護師に相談し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し、見守りの介助を行っている。又、就寝時には、義歯をお預かりし義歯を洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレにて排泄できる様誘導のタイミングを考えている。法人の改善事例研修で入居者様の排泄パターンや行動を明確にし、リハパンから布パンツに変更出来た方も居る。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し、職員間での情報を共有している。又、医師、看護師と相談し、お客様が不快にならぬよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴予定は決めさせて頂いているが、気持ちよく入って頂ける様に支援している。また、季節に応じて菖蒲湯やゆず湯を提供している。体調面や拒否がある時は変更している。又、無理強いすることはしない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やその日の状態に応じて、日中臥床時間を設けたり、外気浴をして夜間の安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みや得意な事を活かし、ご本人様の希望に添える様、支援している。散歩、行事参加を楽しみにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出が出来ていない。外気浴やGH内の行事を楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、お買い物に行ったり、お金を使える支援が出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人情報に配慮して電話を取り次いだり、手紙や年賀状など、大切な人との繋がりが途切れない様に支援している。又、利用者様の携帯は、常にご自身が使用できるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに協力して作った季節の壁飾りを展示したり、テーブルに花を飾ったりして、居心地の良い空間を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の活動に合わせ、座席配置の工夫をしている。パズルや塗り絵、読書など一人でも気の合った方でも過ごせる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や物品、配置などは入居時にご家族様もしくはご本人様にお任せしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の基本動作を把握し、能力に応じ生活が送れるよう、共有部分に手すりや洗面所近くに椅子を置いている。又、トイレなどを明記し、安心して生活できるような環境を作っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHプラチナ・ヴィラ青葉台

作成日 令和3年7月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
11	7	定期的にフロアー会を開催し職員の意見を聞き取り運営に反映させていく。	定期的に会議を開催する。	インシデントの課題の話し合いや見取りの振り替えを行う。入居者様の個々の対応や職員間での問題点を話し合う。業務の見直し確認。	2年
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。